

## 第6期清水町総合計画



### 基本構想の変更及び後期計画の策定について

(第7回定例会議案第88号)

こんな質問がありました。



問

ゼロカーボンシティの実現に向けて、前期計画の評価ではC評価（達成に向けて努力が必要）との検証結果であった。前期計画の反省をどのように後期計画に反映し、ゼロカーボンシティを進めていくのか。

国の情勢の変化や財政上の事情もあり、C評価となった。ただし、ゼロカーボン宣言した町としてまちづくりを進めていく方針は変わらない。全てを一気に進めるのは難しいため、優先すべきものを慎重に選択し、実施計画を随時見直しながら少しずつ進めていく。実施計画は毎年の予算編成の中で見直していく。

答

問

町長の公約では体育館の建設計画を見直すとしているが、後期計画では利用者数の目標が現在とほぼ同じとなっている。今後どのような使われ方を想定しているのか。また、今後5年間で体育館建設の予定はないのか

人口減少が進む中で、前期計画のように高い利用者数を設定することは現実的ではないため、後期計画では直近数年間の平均をもとに、現在の利用状況を維持することを目標としている。体育館の建設については、ほかに優先すべき施設整備や政策があり、順位を下げているので、今後5年間で建設できるかどうかは現状では明確な回答はできない。

答

問

アイスアリーナは、建設から30年以上が経過し、毎年多額の修繕費がかかっている。今後、アイスホッケー人口の動向を踏まえ、町として将来的にどのようにアイスアリーナを運営していく考えなのか。今後5年間で修繕を続けるのか、大規模改修を行うのかなど、方向性を定める必要があるのではないか。

アイスアリーナは建設から35年経過しており、冷却器の更新など大規模な修繕が必要な状況にある。ただ、アイスホッケーは町の誇りであり、その振興については今後も引き続き力を入れていく考えであり都度予算を計上して修繕していきたい。公共施設全般においてそれぞれ老朽化等の課題がある。財政状況を見ながら町民の皆様の命や生活を守っていくかという観点で優先順位を判断していく必要がある。

答

問

町名変更は「十勝清水」を町外の人に知ってもらうことが目的と理解しているが、計画ではホームページのアクセス数が主な指標となっている。町名変更によって、町の認知や理解が実際に進んだかどうかを、町として今後どのように確認していくのか。

町の認知度を測る指標の一つとして、ホームページのアクセス数は引き続き活用していく。町名変更は、認知度の向上や経済効果など、町全体への総合的な波及効果を期待して進めているものであり、その効果については一定期間が経過したのちに、総合的な検証が必要だと考えている。検証にあたっては、認知度調査のアンケートに加え、ホームページのアクセス数やSNS登録者数なども活用出来ると思うので、その際には検討したい。

答